

認知したいじめを速やかに解消した事例 4（中学校第1学年男子）

～相談機関での相談者の意向を尊重し、保護者や関係機関と連携した対応～

問題の把握

夏季休業前に、当該生徒より、部活動の上級生から持ち物を隠されたり、わざとボールをぶつけられたり、「部活動に参加しなくてもよい」と言われたりするなどのいじめを受けており、つらい思いをしている旨のメールと電話での相談を受けた。

対応状況

○相談の内容

相談状況	相談者の相談内容、相談機関の回答内容等
1日目	・メール(複数回)で、いじめの内容や学校名等を伝えてきた。 ・電話で、自分のつらい心情を訴えてきた(相談員の呼びかけには答えなかった)。
回答	・メールで、 <u>身近な信頼できる大人(家族や学校の先生など)へ相談する必要があること</u> を伝えた。
2日目	・メール(複数回)で繰り返して、 <u>いじめの内容を保護者には相談できないこと</u> などを伝えてきた。
回答	・メールで、改めて <u>家族や学校の先生へ相談する必要があること</u> を伝えた。
3日目	・メール(複数回)で、相談機関から保護者に連絡してほしいことなどを伝えてきた。
回答	・メールで、保護者と連絡が取れる時間帯を確認した。
連絡	・電話で、相談者の保護者へ連絡した。
回答	・メールで、相談者に相談者の保護者に連絡し話をしたことを伝えた。
4日目	・メールで、保護者と話をして学校に相談したこと、学校での対応、学校での様子等について伝えてきた。

○家庭や学校との連携の内容

- ・学校の先生や保護者に相談することを相談者に勧めたところ、当方から保護者へ連絡をしてほしいとの要望があった。
- ・保護者に電話でメールの内容を伝えるとともに、保護者には、当該生徒に寄り添い、じっくりと話を聴く時間をもつことが大切であることなど、いじめられている子どもへの対応についてアドバイスした。
- ・保護者と相談者で話し合い、相談者と保護者で学校に相談することとなった。
- ・相談者と保護者からの相談を受けた学校は速やかに対応し、相談者は通常の学校生活を送れるようになり、相談者及び保護者とも学校の対応に納得している。
- ・相談者は所属していた部活動を退部し、他の部活動へ所属することを検討している。

いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・できるだけ早い段階で、学校の教職員や保護者等の周囲の信頼できる大人へ相談することを勧めること。
- ・相談者が相談してきた気持ちを大切にし、相談者を守る姿勢で、気持ちに寄り添い、相談者の立場に立って話を聴き、その意向を受け止めること。
- ・相談者からの解決に向けた要望を踏まえ、その意向を確認しながら家庭や関係機関等との連携を図り、迅速かつ適切に対応を進めること。